

にいがた

北から南から



「どうすれば

やる気が出るの?」

— 中学生の悩み —

三ツ井 富士夫

学習支援活動

「コロナウィルス禍」の中で、様々な活動が自粛され、私が関わっていた小学校での「ふれあいスクール」(毎週水曜日放課後の、地域の人達との遊び、学習等でのふれあい活動)の地域ボランティア活動も今年度いっぱい休止となりました。ただ、私の住む地域の東石山中学校での学習支援ボランティア活動は、コロナウィルス感染の防止に配慮しつつ三月の春季放課後学習会(一年生対象、三日間、一日五十分)や、七月の夏休み学習会(二年生対象、三日間)、そして、十一月の定期テスト対策放課後補充学習会(二〜三年生、出

席は主に一年生、二日間)と、元教師や元塾講師など十五〜二十名程度の地域ボランティアの参加で行われました。一人のボランティアが二〜三名の生徒の「学習をアドバイスする」「質問に答える」「学習を見守る」形で行われています。英、数、国の三教科です。

この学習支援活動は、担当の中学教師と地域教育コーディネーターが中心となって企画運営され、学年団の教師の方々と一体になって進められています。六年ほど前から始まったもので、東石山中学校区では、地域ボランティアに応募する人(初めは口コミで頼まれた)が多く、私も一回目から参加しています。参加生徒は、初めの頃は担任が学習の遅れ気味の生徒にすすめる形でしたが、ここ数年は、参加した生徒達の口コミもあり、希望参加になっています(一部担任のすすめもあるようです)。多いときには、一学年の四分の一以上の生徒が参加するときもあります。活動の成果については、どのように総括されているのかよく分かりませんが、私としては、一人



でも「落ちこぼれ」そんな生徒を勇気づけられればと思い参加しています。今の子ども達にはあまり人見知りすることもなく、「じいちゃん先生」などと言いながら、少しだけ緊張感を持つて、その時間中は真剣に勉強に向きあっています。

「学び」の意欲を失わせているものは？

ところで、ごく最近の学習会で、生徒（この生徒は、落ちこぼれてはいないが、数学などでは、テストで八十点以上とったり、三十点しかとれなかったりしているとのこと）から、「勉強すれば良い点をとれるのは分かるけど、やる気が出ないことが多い。どうすればやる気が出るんですか？」と言われ、何とも答えようがなく、「うーん」と絶句してしまった。以前、この教育情報（126号、シリーズ先生）で、新潟高校通信制の生徒S君（難病と闘いながら、余命いくばくもないことを知りつつ、「学びたい」と通信制に入学し、一年後になくなった）のことを書きましたが、その中

で、「人間の『学び』への欲求は、決して競争や他の人との比較などから生まれるものではないことを学びました」と書きましたが、現在の生徒から「学び」の意欲を失わせているものは何なのか、未だにつかみ切れないでいます。

一つの示唆を与えてくれた（とは言え、十分納得できていない）のは、数年前に読んだ『下流志向ー 学ばない子どもたち、働かない若者たち』（内田樹、講談社、二〇〇七年）です。この書では、『学びからの逃走』は、教育学者の佐藤学氏が言い始めた言葉で、佐藤氏は九〇年代以降の劇的な学力低下の原因を探ってゆく過程で、「この学力低下が、子どもたちの怠惰や教師の教育技術の低下のせいではなく、むしろ子どもたちが積極的に学びから逃走し始めていることに起因することに気づいた」とのべています。そして子どもたちがなぜ積極的に学びから逃走するのかを掘り下げています。教師の方々、特に若い教師の方々、若い保護者の方々に、読んで頂け

にいがた

北から南から



ればと思います。また、佐藤氏の著書『授業を創る、学びが変わる 教師たちの挑戦』（小学館、二〇〇三年）も読んでみてほしいと思います。

読書の日々

話は変わりますが、コロナ禍で外出が減った分、本を読む時間が増え、「拉致」問題、徴用工・「慰安婦」などをめぐる日韓関係、安倍政権、菅政権のすすめる政策のバックボーンとなっている「日本会議」・「神道政治連盟」に関するものと、その思想的背景となっている「皇国史観」などの本を読んでいます。まだ十分消化できず、まとまった感想や紹介は出来ませんが、いずれ機会があればと思います。

（みつい ふじお・新潟市）

創作のことなど

五十嵐

淳

「群青の彼方」

四年前に日本民主主義文学会新潟支部に入会し、それから年に一作のペースで短編小説を書き、支部の同人誌「河口」に発表してきました。本年度発行の「河口」二十三号に掲載された拙作「群青の彼方」が思いのほか好評で、そのことが「にいがたの教育情報」編集部（耳に入り、今回の原稿依頼となりました）

「群青の彼方」は、二〇二〇年二月二十七日（木）の夕刻に突然発せられた臨時休校要請につづく中学校現場の様子を描いた作品です。見通しが立たない混乱のなか、何とか無事卒業式をあげてやりたいと願う主人公・樋